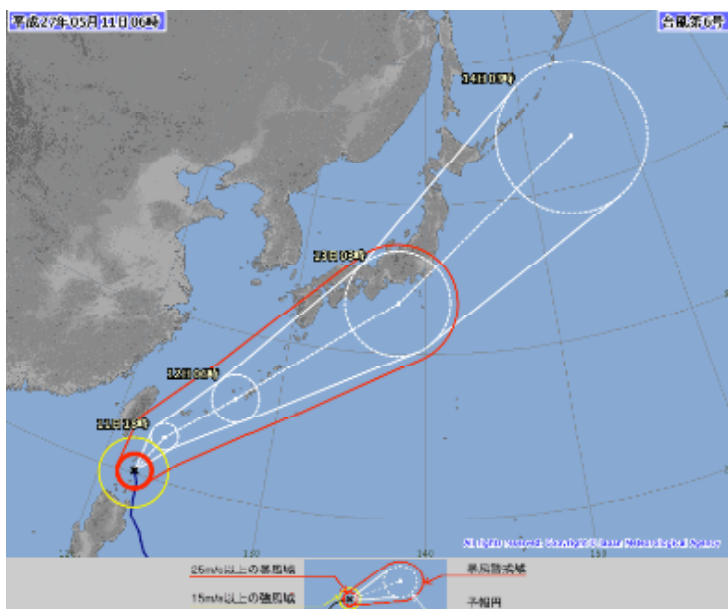


台風6号に関する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課



台風6号が本県に接近する可能性がありますので、農作物等の台風対策には万全を期してください。

今後、気象庁が発表する台風情報に留意し、農作物等の管理には十分注意しましょう。

農作業及び農地・農業用施設の見回りは気象情報を十分に確認し、水路等が増水している場合や土砂災害等のおそれがある場合は、危険な場所には近づかないでください。

(台風経路図は気象庁ホームページより引用)

1 作物

(1) 事前対策

ア 水稻

- (ア) 育苗ハウスを点検し、強風に備え補修や補強を行いましょ。
- (イ) 増水に備え、用排水路を点検しゴミ等を取り除いておきます。
- (ウ) 畦畔が崩壊しないよう点検し、必要に応じて補強しましょ。
- (エ) 田植え後のほ場は、強風に備え深水管理をしましょ。
- (オ) これから田植えや農薬の散布を予定している場合は、台風通過後に強風がおさまってから実施しましょ。

イ 麦類

速やかにほ場排水ができるよう明きよ、暗きよ等を点検し、ゴミ等の除去などを実施しておきましょ。滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょ。

(2) 事後対策

ア 水稻

- (ア) 冠水した場合は、少しでも早く苗の葉先を出すよう早急に排水しましょ。
- (イ) ほ場内に流木等の異物が流入した場合は、早期に取り除きましょ。

イ 麦類

表面水や明きよの滞水は早急にほ場外に排水しましょ。

2 野菜・花き

(1) 事前対策

ア 共通

- (ア) ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害の恐れがある地帯では強制排水用のポンプも準備しておきましょう。
- (イ) ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修しましょう。
- (ウ) パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。
- (エ) パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋かいを入れ、補強しましょう。
- (オ) 施設では、天窓や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。
- (カ) 雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。
- (キ) 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。
- (ク) は種期や定植期となっているものは、台風通過後に実施しましょう。

イ 野菜

- (ア) キュウリやナス、ピーマン等のトンネル栽培では、被覆資材をしっかりと固定し、飛ばされないようにしましょう。
- (イ) 露地の葉菜類や根菜類では、べたがけ資材（不織布等）を支柱を用いて浮き掛けすることにより被害を軽減することができます。その際は、べたがけ資材が風に飛ばされないようしっかりと止めましょう。

ウ 花き

- 露地栽培では、フラワーネットの張りや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

(2) 事後対策

ア 共通

- (ア) 停滞水は、明きょなどで速やかな排水に努めましょう。
- (イ) 台風通過後は、吹き返しに注意しながら、施設等の換気を図りましょう。

イ 野菜

- (ア) 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし、根の動きを回復させましょう。
- (イ) マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいので、マルチを一時的にはいで畦の乾燥させましょう。
- (ウ) 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行いましょう。また、草勢回復のため、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行いましょう。

ウ 花き

- (ア) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤

のかん注により、草勢回復を図りましょう。

3 果 樹

(1) 事前対策

- ア ももせん孔細菌病が発生している地域では、台風の風雨の影響で感染が拡大するおそれがありますので、台風の接近前に防除を実施しましょう。
- イ 立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがありますので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束します。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等はずし風になびくようにしましょう。
- ウ リンゴのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しておきます。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないかどうか確認しましょう。
- エ 果樹棚（ナシ、ブドウ等）等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行いましょ。
- オ 多目的防災網を展開している園や周囲に防風ネットを設置している園では、強風で飛ばされないように補強しましょう。

(2) 事後対策

- ア 滞水している園地では、明きよなどにより速やかな排水に努めましょう。
- イ 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に適切に薬剤散布を実施しましょう。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施しましょう。
- ウ 落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて修正摘果を行いましょ。
- エ 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定し、かん水やマルチにより根の乾燥防止に努め、新根の発生を促しましょ。大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させましょ。
- オ 台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温になり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなりますので、スピードスプレーヤ等で散水し、樹体温を下げるとともに湿度を維持し、被害を軽減するようにしましょ。

4 畜産・飼料作物

(1) 事前対策

- ア 強風による畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎等の損壊及び風雨の吹き込みを未然に防止するため、屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等の応急措置を行いましょ。
- イ 開放された飼料の保管場所では、乾草や稲わら等をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしてください。
- ウ 堆肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょ。
- エ あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう対策を行いましょ。
- オ 水はけの悪い草地や飼料畑には明きよを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょ。

(2) 事後対策

- ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。
- イ 滞水している草地や飼料畑は、明きよなどを点検し速やかに排水しましょう。
- ウ 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 024(521)7339

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>